



2024年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年1月15日

上場会社名 ワンダープラネット株式会社 上場取引所 東
コード番号 4199 URL <https://wonderpla.net/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 常川 友樹
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 佐藤 彰紀 TEL 052-265-8792
四半期報告書提出予定日 2024年1月15日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年8月期第1四半期の業績（2023年9月1日～2023年11月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|---------------|-----|-------|------|---|------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2024年8月期第1四半期 | 626 | △24.8 | 63 | — | 62 | — | 16 | — |
| 2023年8月期第1四半期 | 832 | 24.5 | △237 | — | △240 | — | △238 | — |

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|---------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2024年8月期第1四半期 | 6.50 | 6.50 |
| 2023年8月期第1四半期 | △110.75 | — |

(注) 2023年8月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

| | 総資産 | | 純資産 | | 自己資本比率 | |
|---------------|-------|------|-----|------|--------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2024年8月期第1四半期 | 1,857 | 34.8 | 646 | 30.5 | 646 | 34.8 |
| 2023年8月期 | 2,061 | 30.5 | 629 | 30.5 | 629 | 30.5 |

(参考) 自己資本 2024年8月期第1四半期 646百万円 2023年8月期 629百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2023年8月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 2024年8月期 | — | — | — | — | — |
| 2024年8月期（予想） | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年8月期の業績予想（2023年9月1日～2024年8月31日）

現時点で適正かつ合理的な業績予想の算定が困難であるため記載しておりません。当該理由等につきましては、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|------------|------------|------------|------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 2024年8月期1Q | 2,592,412株 | 2023年8月期 | 2,592,412株 |
| ② 期末自己株式数 | 2024年8月期1Q | 48,632株 | 2023年8月期 | 48,632株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 2024年8月期1Q | 2,543,780株 | 2023年8月期1Q | 2,151,780株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料は、本日TDnetで開示するとともに、当社ウェブサイトにも掲載する予定です。

また、2024年1月16日に機関投資家及びアナリスト向け決算説明会を開催する予定です。その模様（動画）及び説明内容（書き起こし）については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

| | |
|--------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 2 |
| (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 2 |
| 2. 四半期財務諸表及び主な注記 | 3 |
| (1) 四半期貸借対照表 | 3 |
| (2) 四半期損益計算書 | 4 |
| 第1四半期累計期間 | 4 |
| (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 | 5 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 5 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 5 |
| (セグメント情報) | 5 |
| (重要な後発事象) | 5 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は「楽しいね!を、世界中の日常へ。」というミッションを掲げ、世界中の一人でも多くの人々の日常に、家族や友達と「楽しいね!」と笑いあえるひとときを届け、国・言語・文化・年齢・性別等あらゆる壁を越えて誰もが楽しめるプロダクト・サービスを創り、コミュニケーションを通じた「笑顔」を世界の隅々まで広げることが目指しております。当社のエンターテインメントサービス事業につきましては、当社オリジナルタイトル「クラッシュフィーバー」、LINEヤフー株式会社との協業タイトル「ジャンプチ ヒーローズ」を配信しており、多くのユーザーに長期的に楽しんでいただける運営に取り組んでおります。

当第1四半期累計期間の売上高の状況につきましては、「アリスフィクション」の前年同期比での減収影響が最も大きく、「クラッシュフィーバー」も前年同期と比較して減収で推移したことを主因に、会社全体では前年同期比で減少となりました。「ジャンプチ ヒーローズ」及びその他タイトル、コンシューマー系ゲーム開発会社との共同事業による新規タイトル開発に係る売上高は堅調に推移しました。営業利益、経常利益につきましては、中長期的な収益の拡大に向け、コンシューマー系ゲーム開発会社との共同事業やその他の新規タイトル開発(注)にも引き続き取り組んでいる一方で、前事業年度に取り組んだ運営体制の見直しや最適化による外注費等の運営費削減の効果、全社的な費用削減効果により、前年同期比で費用が減少し、売上高は前年同期比で減収となったものの黒字となりました。当期純利益につきましては、当事業年度及び今後の業績見通しや将来課税所得の見積り額を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、繰延税金資産を一部取り崩し法人税等調整額に44,952千円計上いたしました。前年同期と比較して大幅に損失額を縮小し黒字となりました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は626,399千円(前年同期比24.8%減)、営業利益は63,958千円(前年同期は営業損失237,201千円)、経常利益は62,650千円(前年同期は経常損失240,518千円)、四半期純利益は16,546千円(前年同期は四半期純損失238,311千円)となりました。

なお、当社はエンターテインメントサービス事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(注) 当社では、会計上、アプリ・ゲームの新規開発費用を貸借対照表に資産計上せず期間費用としております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末の流動資産は1,520,312千円となり、前事業年度末に比べ142,514千円減少しました。これは主に、売掛金が97,262千円減少したことや、現金及び預金が49,622千円減少したことによるものであります。

固定資産は337,610千円となり、前事業年度末に比べ61,368千円減少しました。これは主に、繰延税金資産の減少により投資その他の資産が44,989千円減少したことや、運営権が17,499千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は1,857,923千円となり、前事業年度末に比べ203,882千円減少しました。

(負債)

当第1四半期会計期間末の流動負債は874,716千円となり、前事業年度末に比べ136,358千円減少しました。これは主に、未払消費税等の減少によりその他の流動負債が77,866千円減少したことや、1年内返済予定の長期借入金が24,999千円減少したこと、また、賞与引当金が24,075千円減少したことによるものであります。

固定負債は336,903千円となり、前事業年度末に比べ84,070千円減少しました。これは、社債が49,000千円減少したことや、長期借入金が35,070千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は1,211,619千円となり、前事業年度末に比べ220,428千円減少しました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末の純資産は646,303千円となり、前事業年度末に比べ16,546千円増加しました。これは利益剰余金が16,546千円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年8月期の業績予想につきましては、現時点で会社全体での合理的かつ信頼性のある業績予想の策定及び公表が困難であると考え、引き続き非開示としております。今後、期間の経過等により、適正かつ合理的な業績予想を行うことが可能になり次第、業績予想を速やかに開示することといたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2023年8月31日) | 当第1四半期会計期間 (2023年11月30日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,029,411 | 979,789 |
| 売掛金 | 567,960 | 470,697 |
| 仕掛品 | 574 | 5,279 |
| その他 | 64,880 | 64,547 |
| 流動資産合計 | 1,662,826 | 1,520,312 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 18,246 | 19,368 |
| 無形固定資産 | | |
| 運営権 | 256,666 | 239,166 |
| 無形固定資産合計 | 256,666 | 239,166 |
| 投資その他の資産 | 124,064 | 79,075 |
| 固定資産合計 | 398,978 | 337,610 |
| 資産合計 | 2,061,805 | 1,857,923 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 42,965 | 38,382 |
| 1年内償還予定の社債 | 258,000 | 258,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 240,288 | 215,289 |
| 未払金 | 149,088 | 157,262 |
| 未払法人税等 | 18,187 | 5,178 |
| 賞与引当金 | 27,666 | 3,591 |
| その他 | 274,880 | 197,013 |
| 流動負債合計 | 1,011,075 | 874,716 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 236,000 | 187,000 |
| 長期借入金 | 184,973 | 149,903 |
| 固定負債合計 | 420,973 | 336,903 |
| 負債合計 | 1,432,048 | 1,211,619 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 573,229 | 573,229 |
| 資本剰余金 | 1,180,522 | 1,180,522 |
| 利益剰余金 | △1,027,027 | △1,010,481 |
| 自己株式 | △96,967 | △96,967 |
| 株主資本合計 | 629,757 | 646,303 |
| 純資産合計 | 629,757 | 646,303 |
| 負債純資産合計 | 2,061,805 | 1,857,923 |

(2) 四半期損益計算書

(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

| | 前第1四半期累計期間 (自 2022年9月1日 至 2022年11月30日) | 当第1四半期累計期間 (自 2023年9月1日 至 2023年11月30日) |
|-------------------------|--|--|
| 売上高 | 832,757 | 626,399 |
| 売上原価 | 875,839 | 423,295 |
| 売上総利益又は売上総損失(△) | △43,082 | 203,104 |
| 販売費及び一般管理費 | 194,119 | 139,145 |
| 営業利益又は営業損失(△) | △237,201 | 63,958 |
| 営業外収益 | | |
| 為替差益 | 3 | 128 |
| ポイント還元収入 | 1,106 | 530 |
| その他 | 90 | — |
| 営業外収益合計 | 1,200 | 658 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 1,765 | 1,098 |
| 社債利息 | 632 | 636 |
| その他 | 2,119 | 231 |
| 営業外費用合計 | 4,516 | 1,966 |
| 経常利益又は経常損失(△) | △240,518 | 62,650 |
| 税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△) | △240,518 | 62,650 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,151 | 1,151 |
| 法人税等調整額 | △3,358 | 44,952 |
| 法人税等合計 | △2,206 | 46,104 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | △238,311 | 16,546 |

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期累計期間(自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)

当社はエンターテインメントサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第1四半期累計期間(自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)

当社はエンターテインメントサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

(主要取引先とのサービス終了に伴う事業提携契約終了)

当社は、2023年12月20日開催の取締役会において、主要取引先であるLINEヤフー株式会社(以下「LINEヤフー」という。)との共同事業である「ジャンプチ ヒーローズ(以下「本タイトル」という。)」の配信を2024年3月に終了し、それに伴いLINEヤフーとの事業提携契約を終了することを決議いたしました。

1. サービス終了の理由

当社とLINEヤフーは、両社の共同事業である『週刊少年ジャンプ』の創刊50周年を記念した本タイトルにおいて、LINEヤフーがパブリッシング、当社が開発・運営を担当し、2018年3月から本タイトルの日本語版の配信を開始し、2019年6月には繁体字版の配信を開始いたしました。これまで両社の事業提携契約に従って、本タイトルの開発・運営を継続してきましたが、この度、LINEヤフーと著作権元の間での本タイトルに係る契約が終了することに伴い、LINEヤフーとの協議の結果、2024年3月27日をもって本タイトルの配信を終了することとなりました。

2. 日程

- ・取締役会決議日 : 2023年12月20日
- ・本タイトル配信終了日 : 2024年3月27日(予定)
- ・事業提携契約終了日 : 2024年3月27日(予定)

3. 今後の見通し

本タイトルの配信終了を踏まえた当事業年度の見通しについては、第2四半期会計期間において本タイトルの寄与が大きく減少し、第3四半期会計期間以降は寄与が無くなることを主な要因として、通期の売上高は前事業年度比減収となりますが、前事業年度に引き続き通期での営業黒字となる想定に変更はありません。前事業年度において本タイトルは、配信開始から5年が経過し、緩やかな減収推移が続く中、当社内で拡大傾向にあった人員体制の見直しやコスト削減に取り組んだことで、営業黒字を維持はできたものの減益推移が課題となりました。一方で、配信開始から8年が経過した「クラッシュフィーバー」は、前事業年度において前々事業年度比で増収と好調に推移し、当社単独運営であることから利益貢献も大きく、前事業年度の当社全体の営業黒字化を最も牽引する役割を果たしました。「クラッシュフィーバー」は、当事業年度においても継続した利益貢献を見込んでおります。

また、新規開発については、当社は『ハイブリッドカジュアル』にフォーカスし、『カジュアル』×『長期運営』×『グローバル』×『IP活用』を軸にしたタイトル開発に取り組む方針です。今後の新規開発タイトルはコンシューマー系ゲーム開発会社との共同事業新規タイトルに、協業先との有力IPタイトル2本を加えた計3本を開発中で、年1本程度を目処とした新規リリースに注力してまいります。本タイトルの配信終了に伴う人的リソースについては、主にこれら新規タイトル開発に活用することで、適正化された組織体制を維持し、引き続き適切な規模での開発投資に努めてまいります。

以上のことから、当事業年度においては本タイトル配信終了により前事業年度比で減収となる影響はあるものの、前述の取り組みにより営業利益への影響額は最小限とし、引き続き通期での営業黒字化に努めながら、本タイトルの人的リソースを活用し事業成長に資する新規開発にも注力してまいります。